

小学校

平成 17 年 度

# 教育研究員研究報告書

国	語
---	---

東京都教職員研修センター

# 目 次

<b>I 全体研究主題</b>	
1 研究主題設定の理由	2
2 研究主題についての基本的な考え方	2
<b>II 研究の概要</b>	
1 確かな読みの力を育てる指導の工夫	3
2 確かな書写力を育てる指導の工夫	4
3 個に応じた指導の工夫	4
4 研究構想図	6
分科会の研究構想	7
5 検証授業の実際	8
<b>III 各分科会の実践</b>	
1 低学年分科会の実践	9
第2学年 「きつねの心をのぞいてみよう」	
2 中学年分科会の実践	12
第4学年 「インタビューに答えながら、 大切な言葉に気を付けて『白いぼうし』を読もう」	
3 高学年分科会の実践	15
第6学年 「ニュースで発信しよう、未来のわたしたちへのメッセージ」	
4 書写分科会の実践	18
第3学年 「『月』をプレゼント」	
<b>IV 研究の成果と課題</b>	21
<b>V 資料</b>	
1 「確かな読みの力を育てる読むこと」の評価規準表	22
2 「確かな書写力」を育てるための評価規準表	24

## < 要 約 >

現在、児童の学習意欲の低下や学習習慣の定着の不十分さについて、また、学力の面では、読解力の低下について指摘がなされている。また、自ら学び考えるために不可欠な基礎・基本が徹底されていないことも指摘されている。なお、中央教育審議会においては、「生きる力」を知の側面からとらえた『確かな学力』の育成を急務の課題とし、具体的な方策を提言している。

これらの現状を踏まえ、本研究では、

- ・自ら文章を正確に読み進め、その文章から想像したり考えをもったりする児童（読むこと）
- ・進んで正しく文字を書き、身に付けた書写力を日常生活に取り入れる児童（書写）

を育てたいと考えた。そして、研究主題を「確かな読みの力と書写力を育てる個に応じた指導」とし、研究を進めてきた。研究内容としては、①確かな読みの力・書写力を育てる指導の工夫②個に応じた指導の工夫の2点を重点とした。また、読むこと・書写、それぞれにおいて評価規準を作成し、学習方法（学習活動や学習形態等）や一人一人の学習状況に応じた指導を工夫し、実践的な研究を行った。

# I 全体研究主題

## 全体研究主題

確かな読みの力と書写力を育てる個に応じた指導の工夫

### 1 研究主題設定の理由

OECD（経済協力開発機構）が41か国・地域の15歳生徒を対象に実施した学習到達度調査（PISA）によれば、わが国は、読解力ではOECD加盟国平均程度との公表結果となっている。教育課程実施状況調査においては、児童に学習意欲や学習習慣が身に付いていないなどの課題が指摘されている。

また、平成15年の文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」では、「国語科教育で育てる大切な能力」として、①考える力（論理的思考力）②感じる力（情緒力）③想像する力④表す力の4つの力を重要とし、その中の「情緒力」については、「読むこと」が基本となるとしている。

このような現状を踏まえ、私たちは、まず文学的文章や説明的文章にかかわらず、児童自ら文章を正確に読み進め、その文章から想像したり考えをもったりすることができるようにすることが必要であると考えた。また、進んで文字を正しく書こうとし、身に付けた書写力を日常生活に生かせることが大切であると考えた。

そこで、具体的にどのような力を身に付けることが必要かを考え、「確かな読みの力」と「確かな書写力」に焦点化して追究することとした。同時に、これらの力を身に付けるためには児童の学ぶ意欲を高め、個に応じた指導を充実させていく必要があると考えた。

そこで、「確かな読みの力と書写力を育てる個に応じた指導の工夫」を全体研究主題とし、児童一人一人の学習状況を把握し、読み方の個性や読む能力に応じた指導を行うこととした。

### 2 研究主題についての基本的な考え方

研究主題の「確かな読みの力」「確かな書写力」「個に応じた指導」について、本研究では次のようにとらえた。

「確かな読みの力」とは

- 叙述に即して正確に読む力
- 叙述を基に想像しながら読む力
- 叙述に関して自分の考えをもちながら読む力
- 目的に応じて読む力

「確かな書写力」とは

- 文字に関心をもち、文字の書き方を正確に理解する力
- 姿勢に気を付け、用具を大切に書く力
- 筆順、字形、点画を正しく書く力
- 文字の大きさ、字配りを考えて書く力

また、「個に応じた指導」とは、評価を生かし、一人一人の学習状況に応じた工夫をする指導であるととらえた。なお、「個に応じた指導」の内容としては、以下の2つがあると考えた。

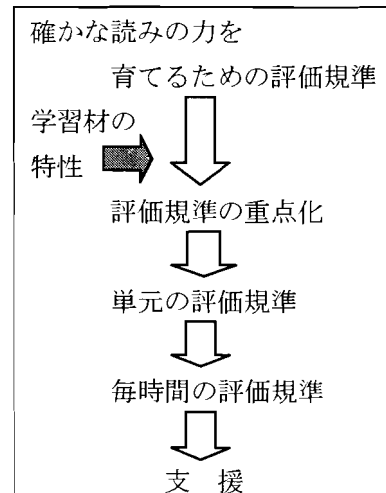
- （読むこと）・個別性に応じた指導・・・基礎的基本的内容を確実に定着させるために、一人一人の読む力に応じた支援・指導を行うこと
  - ・個性に応じた指導・・・一人一人の興味・関心に応じた課題を設定し、主体的な学習が展開できる指導を行うこと
- （書写）・個別性に応じた指導・・・基礎的基本的内容を確実に定着させるために、一人一人の書写力に応じた支援・指導を行うこと
  - ・個性に応じた指導・・・一人一人の書写力を伸ばし、日常に生きて働く力を身に付けさせる指導を行うこと

## II 研究の概要

### 1 確かな読みの力を育てる指導の工夫

#### (1) 評価規準の作成

- ・学習指導要領の「読むこと」の6つの指導事項のうち、特に「叙述内容に即した読むことに関する指導事項」「想像的な読むことに関する指導事項」「事象と感想、意見にかかわる読むことに関する指導事項」「目的的な読むことに関する指導事項」の4つに重点をおいた。そして、この指導事項にかかわる評価規準を作成した。発達段階を踏まえ、学習材の特性に合わせた評価規準を設定し、身に付けさせたい力を重点化してきた。
- ・学習活動に即した具体的な評価規準を単元の指導計画に位置付けた。



#### (2) 言葉や表現、内容をとらえる力を身に付けさせるための工夫

- ・言葉や表現、内容に常に立ち返らせるような読みの指導方法を発達段階に応じて工夫した。
- ・叙述に即して文章の中心となる語や文を意識して読むようにするために、どの学年もサイドラインを引くことを学習に取り入れた。文学的文章では、登場人物の様子や心情が分かる文章に、説明的文章では文の中心となる語や文にサイドラインを引くことを基本とした。児童には、本時の読みの課題に合わせて、サイドラインを引く視点を明確に示した。
- ・読み取った内容をより明確にするために、発達段階に応じた活動「再構成」を取り入れた。例えば、低学年では、吹き出しに登場人物の心情を自分の言葉で書けるようにした。中学年では、登場人物になってインタビューに答える文章を書き、視点を変えた再構成を行った。また、高学年では、相手意識をもってニュース台本を書き、読み取った内容を再構成するようにした。このような学習活動を行うことにより、児童は読む必然性を持ち、内容の理解をさらに深められると考えた。

#### (3) 「学び合い」を自分の読みに生かす指導方法

- ・友達の読み方や感じ方を知ったり、自分の考えとの違いに気付いたり、それぞれのよさをとらえたりすることができる「学び合い」を通して、自分の読みを確かめたり深めたりすることができると思え、学習計画に位置付けた。
- ・どの学年も、1単位時間に個人→グループ→全体→個人という学習形態を入れ、学習材の特性などに応じて「自分で読む時間」と「学び合いの時間」を確保した。
- ・発達段階に応じた学び合いを生かす学習過程を工夫した。例えば、低学年では、ワークシートに友達の考えを書き込む吹き出しを用意した。中学年では、書き終わった児童から考えを交流できる交流コーナーを作り、自分と異なる多様な考えを多く知ることができるようにした。また、高学年では、ねらいに合った学び合いをするために話し合いの手順を示し、児童が自分たちで読み取ったことを学び合えるようにするとともに、自分の考えを振り返り、修正や付け加えることができるようにした。

## 2 確かな書写力を育てる指導の工夫

### (1) 評価規準の作成

「確かな書写力」を育てる視点として「文字に関心をもち、文字の書き方を正確に理解する力」「姿勢に気を付け、用具を大切に書く力」「筆順、字形、点画を正しく書く力」「文字の大きさ、字配りを考えて書く力」の4観点に沿った評価規準を作成した。そして、その「評価規準表」を基に、単元の目標に照らし合わせ、単元の指導計画に、学習活動に即した具体的な評価規準を設定する。

### (2) 学習材の特性を生かした指導計画

硬筆と毛筆の関連学習を指導計画に位置付けるため、既習の筆使いが含まれた効果的な学習材を選ぶ。既習の漢字や平仮名が含まれている詩文を選び、学習した毛筆の筆使いを生かして、硬筆で書く設定をする。

### (3) 日常化を促す効果的な学習活動の工夫

手書きの文字のよさを生かし、進んで文字を書く児童を育てるため、相手意識や目的意識を明確にもって書かせるようにする。

## 3 個に応じた指導の工夫

### (1) 読むこと

#### ア 評価規準に基づく指導・支援

学習活動に即した具体的な評価規準を実現するために、一人一人の学習状況などに応じて必要な指導・支援を、1単位時間ごとに明らかにする。そのために、以下の4つの観点から机間指導計画表（座席表型）を作成する。

#### 【確かな読みの力の4つの観点】

- ・ 叙述に即して正確に読む力 → ㊸
- ・ 叙述を基に想像しながら読む力 → ㊹
- ・ 叙述に関して自分の考えをもちながら読む力 → ㊺
- ・ 目的に応じて読む力 → ㊻

[机間指導計画表（例）]

児童名（1）		児童名（2）	
①		①きつねについて感想を書くように始めに声をかける。	○
②サイドラインの確認 〔適切な箇所に引いている。〕	A	②きつねを主語にして吹き出しを書くように、書き出しを指示する。 〔続きを一人で書いている。〕	○
③友達の考えがよいと思う理由も言わせる。 〔理由があいまいである。〕	○	③	

・ ①は、第1時を表す。  
 ・ 各時間の上段には、指導計画を記入する。  
 ・ 各時間の下段には、学習状況を記入する。  
 ・ 記号（A、○等）は、評価を表す。

（第3時の評価規準）  
 「親切なお兄ちゃん」と言われたときのきつねの気持ちを想像しながら読み、友達の考えとの違いやそのよさに気付いている。〔 ㊸・㊹ 〕

※ 3単位時間で1枚の机間指導計画表に書く。

イ 学習形態・学習方法の多様化

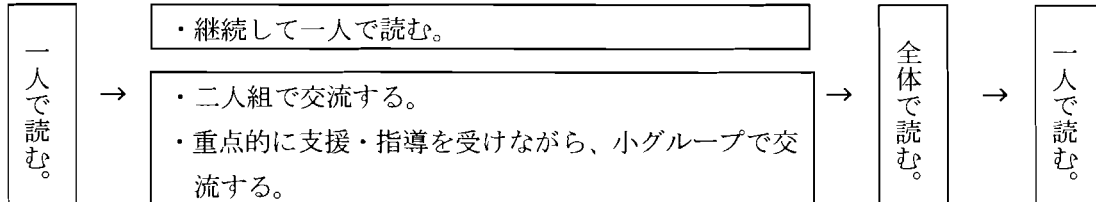
(ア) 読みの課題を選択できるようにする。

「白いぼうし」(4年)の選択課題例

課題① 松井さんへ「なぜ女の子は、とつぜんいなくなったと思いますか。」

課題② 女の子へ「どうしてとつぜんいなくなったのですか。」

(イ) 学習形態を選択できるようにする。



ウ 自己評価

児童の学習意欲や課題意識を高めるために、自己評価を行う。

【自己評価の観点】

(あ) 読みの課題解決に関する内容	(い) 学び方に関する内容
(う) 学習材の内容的な価値に関する内容	(え) 読みを生活に生かすという視点での内容

- ・各時間、観点を明確にし、1・2点に絞って行う。
- ・観点(あ)(い)は、単元指導計画の導入・展開において、観点(う)(え)は、終末において行う。

[記述による自己評価例…観点(あ)]

「きつねは、ひよこたちのことを家ぞくのように思っているのだと思いました。」

[記号による自己評価例…観点(い)]

「友だちの考えを知ることができましたか。(◎ ○ △)」

(2) 書写

ア 一人一人の書写力に応じた机間指導計画表の工夫

単元の評価規準と前時までの評価に基づき、机間指導計画表(座席表型)を作成する。支援の欄に、できるだけ簡潔に支援の方法を記入し、実際の机間指導では、児童の課題に応じて助言を行ったり、個別に運筆の指導をしたりする。

イ 自ら課題を見付け解決する指導の工夫

試し書きと解説の入った基準の文字を客観的に比べ、自分の課題となることを見付けるようにする。その課題を解決するための練習用ワークシートは、部分、外形、筆使い等が意識できるようなものを用意する。中学年では、自分で適した練習用ワークシートを選べるようにし、高学年では、自分で練習用ワークシートを作れるようにした。

ウ 日常化を促す効果的な評価の工夫

- ・自己評価…試し書きをした後、基準の文字と比べて課題となる部分に赤ペンを入れ、練習に生かせるようにする。また、まとめ書きの後、試し書きの文字と比べ、目標がどの程度達成できたか自己評価し、学習カードに記入する。
- ・相互評価…座席が近い友達でまとめ書きの文字を見合い、お互いの変容を認める。
- ・鑑賞…掲示した全員の作品を見合い、友達の作品のよいところに気付くようにする。

#### 4 全体研究構想

**東京都教育委員会の教育目標**

- 互いの人格を尊重し、  
思いやりと規範意識のある人間
- 社会の一員として、  
社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び考え行動する、  
個性と創造力の豊かな人間

**「生きる力」の育成**  
(平成10年中教審答申より)

- 豊かな人間性
- 確かな学力
- 健康・体力

**児童の実態**

- 言葉による人間関係形成能力  
・自己表現力の低下
- 読書量・語彙力の低下(活字離れ)
- 読解力の低下

**これからの時代に  
求められる国語力**  
(平成16年文化審議会答申)

- 情報を処理・操作する力  
(考える力、感じる力、想像する力、  
表す力)
- 基盤となる「国語の知識」や  
「教養・価値観・感性」

**国語科の目標(学習指導要領)**

国語を適切に表現し、正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

<b>書写</b>	<p><b>○文字を正しく整えて書く</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字に対して関心をもち、文字や文字の書き方を正確に理解すること。</li> <li>・自分の課題をもち、意欲的に文字を書くこと。</li> <li>・判読性・伝達性のある文字を書く力を身に付けること。</li> </ul>	<p><b>○日常化を目指す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意識的に文字を書くこと。</li> <li>・身に付けた書写力を日常生活で、主体的に活用すること。</li> </ul>
<p><b>分科会主題</b></p> <p><b>文字を正しく整えて書きながら、日常に生きて働く書写力を育てる個に応じた指導の工夫</b></p>		

**研究主題**

**確かな読みの力と書写力を育てる  
個に応じた指導の工夫**

<b>低学年</b>	<p><b>分科会主題</b></p> <p><b>叙述に即して自分の思いを膨らませながら、 読む力を育てる個に応じた指導の工夫</b></p>	
	<p><b>○叙述に即して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つの語句や表現の意味を理解すること。</li> <li>・順序を表す言葉に着目して書かれている内容をとらえること。</li> <li>・あらすじを押さえながら場面ごとの様子をとりえ叙述と結び付けて考えること。</li> </ul>	<p><b>○自分の思いを膨らませながら</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問や感想をもったり、想像したりしながら読むこと。</li> <li>・友達の考えを知ること。</li> </ul>
<b>中学年</b>	<p><b>分科会主題</b></p> <p><b>叙述に即して自分の考えをもちながら、 読む力を育てる個に応じた指導の工夫</b></p>	
	<p><b>○叙述に即して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心となる語や文をとらえて文章を正しく読むこと。</li> <li>・段落ごとの意味や関係を理解し全体構造をとらえること。</li> <li>・文脈における言葉の意味をとらえ場面の移り変わりを想像しながら読むこと。</li> </ul>	<p><b>○自分の考えをもちながら</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的意識をもちながら読むこと。</li> <li>・文や言葉に基づいて、自分なりの意見や感想をもちながら読むこと。</li> <li>・友達の考えのよさや自分の考えとの違いに気付くこと。</li> </ul>
<b>高学年</b>	<p><b>分科会主題</b></p> <p><b>叙述に即して自分の考えを明確にしなが 読む力を育てる個に応じた指導の工夫</b></p>	
	<p><b>○叙述に即して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図などに応じて文章の内容を的確に押さえながら内容や要旨をとらえること。</li> <li>・目的や意図などに応じて文章の内容を的確に押さえながら内容や要旨をとらえること。</li> <li>・文章構成や語句の使い方、文末などの表現を手がかりに筆者の主張の軽重や表現の工夫を吟味すること。</li> </ul>	<p><b>○自分の考えを明確にしなが</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図をもって読むこと</li> <li>・自分がどのように感じ考えるかを、表現しながら読むこと。</li> <li>・友達の考えを自分の読みに生かすこと。</li> </ul>

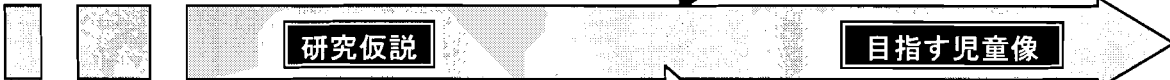
\*なお、具体的な目指す児童像については、それぞれの分科会(国語…低学年・中学年・高学年、書写)で作成した評価規準表を参照ください。

<ul style="list-style-type: none"> <li>●評価規準の作成</li> <li>●学習材の特性を生かした指導計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習のためのワークシートの工夫</li> <li>・学校生活（他教科・特活・行事等）を見通した単元構成</li> </ul> </li> <li>●日常化を促す効果的な学習活動の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・相互評価の工夫</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一人一人の書写力に応じた机間指導計画表の工夫</li> <li>●自ら課題を見付け解決する指導の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の課題をもち、進んで文字を書く子ども</li> <li>○文字に関心をもち、手書きのよさを感じる子ども</li> <li>○基礎・基本を身に付け正しく文字を書く子ども</li> <li>○身に付けた書写力を日常生活に取り入れ、整えて文字を書く子ども</li> </ul>
<p><b>確かな書写力を育てる指導の工夫</b></p>	<p><b>個に応じた指導の工夫</b></p>	

**研究内容**

○文字感覚を養う中で、自分の課題に気付き、主体的な取り組みができる指導方法を工夫すれば、確かな書写力が育ち日常化が図れるだろう。

**確かな書写力を身に付けた児童**



**研究仮説**

○課題をもちながら一人一人が言葉を手がかりに読み進めたり、友達の考えを自分の読みに生かしたりする指導方法を工夫することにより、学び方が身に付き、確かな読みの力が育つであろう。

**確かな読みの力を身に付けた児童**

<p><b>確かな読みの力を育てる指導の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●評価規準の作成</li> <li>●順序や場面の様子を表す語句や表現をとらえる力を身に付けさせるための工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイドラインの活用</li> </ul> </li> <li>●叙述から想像したり考えたりしたことを表現するための工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹き出しなどを使った文章の再構成</li> </ul> </li> <li>●学び合いを自分の読みに生かす指導方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団と個の学習を絡めた学習の流れ</li> </ul> </li> </ul>	<p><b>個に応じた指導の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●評価規準に基づく支援・指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導計画表の作成</li> <li>・ポートフォリオ</li> </ul> </li> <li>●学習方法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動の選択</li> </ul> </li> <li>●自己評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習への関心・意欲</li> <li>・学習内容の理解と学び方</li> </ul> </li> </ul>
--	---

- 叙述に即して正確に読む子ども
- 叙述をもとに想像しながら読む子ども
- 叙述に関して自分の考えをもちながら読む子ども
- 目的に応じて読む子ども

<ul style="list-style-type: none"> <li>●評価規準の作成</li> <li>●中心となる語や文をとらえる力を身に付けさせるための工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイドラインの活用</li> </ul> </li> <li>●叙述から想像したり考えたりしたことを表現するための工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューに答える文章を書くことによる再構成。</li> </ul> </li> <li>●学び合いを自分の読みに生かす指導方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団と個の学習を絡めた学習の流れ（個→グループ→全体→個）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●評価規準に基づく支援・指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導計画表の作成</li> </ul> </li> <li>●学習方法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習形態の選択（一人読み、二人読み、グループ読みなど）</li> <li>・学習活動の選択</li> </ul> </li> <li>●自己評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習への関心・意欲</li> <li>・学習内容の理解と学び方</li> <li>・表現のよさ</li> </ul> </li> </ul>
--	--

○個に応じた指導とは

<国語>

**【個別性に応じた指導】**

- ・基礎的基本的内容を確実に定着させるために、一人一人の読む力に応じた支援・指導を行うこと。

**【個性に応じた指導】**

- ・一人一人の興味・関心に応じた課題を設定し、主体的な学習が展開できる指導を行うこと。

<ul style="list-style-type: none"> <li>●評価規準の作成</li> <li>●叙述に即して内容をとらえるための指導方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイドラインの活用</li> </ul> </li> <li>●叙述から想像したり考えたりしたことを表現するための工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み取ったことをもとに、立場を変えてニュース台本などを書くことによる文章の再構成</li> </ul> </li> <li>●学び合いを自分の読みに生かす指導方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団と個の学習を絡めた学習の流れ（個→グループ→全体→個）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●評価規準に基づく支援・指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導計画表の作成</li> </ul> </li> <li>●学習方法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習形態の選択</li> <li>・学習活動の選択</li> </ul> </li> <li>●自己評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習への関心・意欲</li> <li>・学習内容の理解と学び方</li> <li>・表現のよさ</li> <li>・学んだことの日常化</li> </ul> </li> </ul>
---	--

<書写>

**【個別性に応じた指導】**

- ・基礎的基本的内容を確実に定着させるために、一人一人の書写力に応じた支援・指導を行うこと。

**【個性に応じた指導】**

- ・一人一人の書写力を伸ばし、日常に生きて働く力を身に付けさせる指導を行うこと。



## 5 検証授業の実際

分科会	単元名 (学習材)	◇研究主題に迫るための手立て	○ 成果 ・ 課題
低 学 年	きつねの心を のぞいてみよう (きつねのおきやくさ ま：教育出版 2年上)	【手立て①】 確かな読みの力を育てる指導の工夫 ◇友達の考えを書く吹き出し ◇「一人で読む時間」→「グループ で読む時間」→「みんなで読む時 間」→「一人で読む時間」 【手立て②】 個に応じた指導の工夫 ◇机間指導計画表 (座席表型)	○自分の考えと友達の考えを 書く吹き出しに書くことに より、友達の考えに着目でき た。 ○読むことの学習形態の工夫 は、読みを深める上で有効だ った。 ・グループ学習の有効な人数を 再考する。
中 学 年	インタビューに答えな がら、大切な言葉に気 を付けて『白いぼうし』 を読もう (白いぼうし ：光村図書 4年上)	【手立て①】 確かな読みの力を育てる指導の工夫 ◇インタビュー形式による文章の再 構成 ◇交流コーナーと交流タイムの設定 【手立て②】 個に応じた指導の工夫 ◇机間指導計画表 (座席表型) ◇学習形態・学習課題の選択	○登場人物の立場で文章を再 構成することにより読みを 深められた。 ○交流することで学習を確か めたり他の感じ方を知った りすることができた。 ・より効果的な学び合いの方法 を検討する。
高 学 年	ニュースで発信しよう、 未来のわたしたちへの メッセージ (マンモス絶滅のなぞ ：東京書籍 6年上)	【手立て①】 確かな読みの力を育てる指導の工夫 ◇単元の課題の明確化 ◇「一人で読む時間」→「グループ で読む時間」→「みんなで読む時 間」→「一人で読む時間」 ◇自分の考えから再構成へ 【手立て②】 個に応じた指導の工夫 ◇机間指導計画表 (座席表型) ◇ヒントカード ◇自己評価カード	○ニュース台本を作るという 目的は、再構成を行う上で有 効だった。 ○一人で読み進めにくい児童 へのヒントカード、読みの課 題をもたせる自己評価カー ドは有効な手立てだった。 ・学び合いの前に、一人で読む 時間を十分保障する。 ・「グループで読む時間」の机 間指導の在り方を検討する。
書 写	月をプレゼント「月」 (光村図書 3年)	【手立て①】 確かな書写力を育てる指導の工夫 ◇読むことと関連させた詩文の取り 入れ ◇毛筆の筆使いを意識した硬筆指導 ◇解説書 【手立て②】 日常に生きて働く書写力を育てる工 夫 ◇作品をプレゼント ◇鑑賞 【手立て③】 個に応じた指導と評価の工夫 ◇支援計画 ◇練習用ワークシート ◇自己評価カード	○詩文を取り入れたことは、児 童の学習意欲を喚起した。 ○相手意識や目的意識をもた せることにより、学習意欲と 技能をより高めることがで きた。 ・学習材としてふさわしい詩文 の選択と基準の文字の洗い 出しを進める。 ・手書きの文字の良さを意識さ せるための指導をさらに工 夫する。

### Ⅲ 各分科会の実践

#### **低学年分科会**

##### 1 分科会研究主題

「叙述に即して自分の思いを膨らませながら読む力を育てる個に応じた指導の工夫」

##### 2 低学年分科会の実践 9月実施

###### (1) 単元名「きつねの心をおきやみこ」

学習材「きつねのおきやくさま」 あまんきみこ (教育出版 2年上)

###### (2) 単元の目標

叙述に即して、動物たちとの出会いを通して移り変わっていくきつねの気持ちを想像しながら読むことができる。

###### (3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・きつねの気持ちに関する自分の考えをもち、交流を通して友達の考えを知ろうとしている。	・叙述に即して、きつねの様子や気持ちの移り変わりについて想像しながら読んでいる。	・きつねの言動を、主語と述語の関係に注意しながら読んでいる。

###### (4) 研究主題に迫るための手だて

###### ア 確かな読みの力を育てる指導の工夫

###### (ア) 場面の移り変わりや登場人物の気持ちをとらえさせるためのワークシートの工夫

- ・読みの根拠となる部分にサイドラインを引き、そのサイドラインを生かして吹き出しを書けるようにした。それらのつながりを分かりやすくするために、ワークシートには上段に本文、下段に吹き出しを載せた。
- ・きつねの心情について読み取ったことを、きつねの立場に立って自分の言葉で吹き出しに書く。また、友達の考えが自分の考えと違うことに気づき、よいと思うものを選んで吹き出しに書く。

###### (イ) 友達の考えを知り、一人一人の読みに生かす学習活動の工夫

- ・「一人で読む時間」→「グループで読む時間」→「みんなで読む時間」→「一人で読む時間」という流れを1単位時間ごとに繰り返し行うことで、自分の読みに自信をもったり、違う考えがあることに気付いたりする。

###### イ 個に応じた指導の工夫

###### (ア) 評価規準に基づく指導・支援

- ・評価規準表と前時までのワークシートや観察による評価に基づき、それぞれに具体的な支援の方法を考え、机間指導計画表(座席表型)を作成する。
- ・その時間に重点的に指導する児童を決め、計画的に指導していく。

###### (イ) 自己評価

- ・各時間、観点を提示し記述させ、児童の学習意欲や課題意識を高める。

(5) 単元の指導計画・評価計画（6時間扱い）（検証授業の本時4／6）

時	各時間の目標 ○主な学習活動・主な支援
1	<p>あらすじの大体をとらえ、感想の交流を通して、学習の見直しをもつ。</p> <p>○範読を聞く。 ○初発の感想を書く。 ○感想の交流をする。</p> <p>・あらすじをとらえやすいように、感想を交流する際、場面絵を提示しながら確認していく。 ・感想を生かして、学習課題を作るようにする。</p> <p>《評価規準【評価方法】》 ・あらすじの大体をとらえ、感想を話したり、書いたりしている。 【発言・ワークシート】</p>
2	<p>きつねがひよこと出会う場面を読んで、ひよこを見つけたときと「やさしいおにいちゃん」と言われたときのきつねの様子を読み取る。</p> <p>○「やさしいお兄ちゃん」と言われたきつねの様子を確認しながらサイドラインを引き、気持ちを吹き出しに書く。 ・全体でサイドラインの引き方の確認をする。</p> <p>○吹き出しの記述を発表し合う。 ○友達が発表した考えからよいと思うものを選んで、吹き出しに書き加える。 ○学習の振り返りをする。</p> <p>《評価規準【評価方法】》 ・「やさしいお兄ちゃん」と言われたきつねの様子にサイドラインが引き、きつねの気持ちを想像している。 【発言・ワークシート】</p>
3	<p>きつねがあひると出会う場面を読んで、「親切なお兄ちゃん」と言われたときの様子からきつねの気持ちを読み取る。</p> <p>○「親切なお兄ちゃん」と言われたきつねの様子を確認しながらサイドラインを引き、気持ちを吹き出しに書く。 ○吹き出しの記述を二人組で話し合い、全体の場で発表する。 ○友達が発表した考えからよいと思うものを選んで、吹き出しに書き加える。</p> <p>《評価規準【評価方法】》 ・「親切なお兄ちゃん」と言われたときのきつねの気持ちを想像しながら読み、友達の考えとの違いやそのよさに気付いている。 【観察・発言・ワークシート】</p>

《吹き出し》  
サイドラインを基に吹き出しに書く。友達との読みの交流の後で、友達の考えを書き込む吹き出しに付け足しをする。



《友達の考えを選ぶ視点》

- ① 自分と異なるが、根拠を聞いて納得した考え
- ② 自分と同じ考えで、きつねの気持ちがよく伝わる表現の仕方をしている考え

\*「みんなで読む時間」では、発表した考えについて、教師が意味付けたり価値付けたりし、友達の吹き出しを選ぶ際の助けとなるようにする。

《振り返りの視点》

- ① 本時の読みの課題について、考えることができたか。
- ② 自分と友達の考えの似ているところや違うところに気付くことができたか。

《二人組で読む時間の位置付け》

- ・自分の考えを伝える場を、全員に保障する。
- ・意見の交流を通して、自分の考えに自信をもたせる。
- ・友達の意見を聞いて、考えを補足させる。

	<p>きつねがうさぎと出会う場面を読んで、「かみさまみたいなお兄ちゃん」と言われたときのきつねの様子から気持ちを読み取る。</p>	<p><b>【指導の重点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの場面を通して、きつねの様子を読み取ること。</li> </ul>
4 本時	<p>「かみさまみたいなお兄ちゃん」と言われたきつねの心をのぞいていみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1、2、3の場面のきつねの様子を比較する。</li> <li>○「かみさまみたいなお兄ちゃん」と言われたきつねの行動にサイドラインを引き、気持ちを吹き出しに書く。</li> <li>○二人組で話し合い、よいと思った吹き出しの記述を全体に発表する。</li> <li>○友達の考えを吹き出しに書き加える。</li> </ul> <p>《評価規準【評価方法】》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きつねの様子の変化に気付いて、きつねの気持ちを想像しながら読んでいる。【ワークシート】</li> <li>◇きつねの様子の変化を読み取るのに戸惑っている児童への支援</li> <li>・サイドライン（少しぼうっとした、5回もつぶやいた、気絶しそうになった）を基に考えさせる。</li> <li>・気絶しそうになったきつねの気持ちを個別に聞き取り、助言をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2、3の場面の比較をすることで、きつねの様子の違いに気付き、それが3場面の読み取りに生かせるようにする。</li> <li>・きつねが3匹をえさとして見ているかについては、多様な考えを認める。</li> </ul>
5	<p>きつねがおおかみと戦う場面を読んで、きつねの様子や言葉から、きつねが飛び出したわけを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○なぜきつねは、おおかみと戦ったのかを考え、吹き出しに書く。</li> <li>・きつねはおおかみより、弱者であることを押さえる。</li> <li>○二人組で話し合い、よい考えを全体に発表する。</li> <li>○友達が発表した考えから、友達の考えを書き込む吹き出しに書く。</li> </ul> <p>《評価規準【評価方法】》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの場面を通してのきつねの様子の変化を基に、きつねが飛び出した理由を想像しながら読んでいる。【発言・ワークシート】</li> </ul>	<p><b>(6) 検証授業の成果と課題</b> <b>(研究主題に迫るための手だて)</b></p> <p>確かな読みの力を育てる指導の工夫</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイドラインを引くことは、吹き出しを書くための根拠を明らかにするのに有効であった。</li> <li>・二人組で読む時間やみんなで読む時間は、友達の考えと自分の考えの違いを知るよい機会となった。</li> <li>・友達の考えを吹き出しに書き込むことによって、友達の考えを次時に生かすことができた。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が記述したその場で、吹き出しに対し価値付けをするための更なる具体的な評価規準を、考えることが大切である。</li> </ul> <p>個に応じた指導の工夫</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導計画表は、子どもの変容を明確にとらえることができ有効であった。また、1単位時間における支援の焦点化ができた。</li> </ul>
6	<p>きつねがはずかしそうに笑って死に、ひよこ、あひる、うさぎが涙を流す場面を読んで、きつねについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○なぜきつねははずかしそうに笑って死んだのかを考えて、ワークシートに書く。</li> <li>・ワークシートを読み返し、話全体について意見や感想、話し合いの感想を振り返りに書くようにする。</li> </ul> <p>《評価規準【評価方法】》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きつねがはずかしそうに笑って死んだ理由について全文を通して考え、自分の初発の感想と比べて、読みが深まっていることに気付いている。【発言・ワークシート】</li> </ul>	

## 中学年分科会

### 1 分科会研究主題

「叙述に即して自分の考えをもちながら、読む力を育てる個に応じた指導の工夫」

### 2 中学年分科会の実践 7月実施

#### (1) 単元名「インタビューに答えながら、大切な言葉に気を付けて『白いぼうし』を読もう」

学習材「白いぼうし」 あまんきみこ (光村図書 4年上)

#### (2) 単元の目標

「白いぼうし」の登場人物の行動を押さえながら、叙述に即して場面の移り変わりや情景を想像して読む。

#### (3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・一人一人の考えや感じ方に違いがあることに気付き、進んで交流している。	・松井さんや女の子の行動に着目し、叙述に即して場面の移り変わりや情景を想像しながら読んでいる。	・自分の考えの根拠となる語句や文を見付けている。

#### (4) 研究主題に迫るための手だて

##### ア 確かな読みの力を育てる指導の工夫

###### (ア) 確かな読みの力の評価規準の作成

- ・目標に照らして学習活動を焦点化して組み立てる。

###### (イ) 中心となる語や文をとらえる力を身に付けさせるための工夫

- ・課題解決のために必要な叙述に着目させるために、登場人物の立場でインタビューに答えるという再構成の学習活動を取り入れる。

###### (ウ) 学び合いが自分の読みに生きる学習活動の工夫

- ・サイドラインを引いた箇所や、その言葉から想像したことを交流し、読み取ったことの違いに気付かせるために交流コーナーを設ける。
- ・読み取ったことの違いや、インタビューの答え方の違いに気付かせるために、交流タイムを設定する。

##### イ 個に応じた指導の工夫

###### (ア) 評価規準に基づく指導・支援

- ・本単元では、「叙述に即して正確に読む力」と「叙述を基に想像する力」を評価の重点とする。ワークシートの記述や観察などの評価に基づき、次時の学習活動に即した具体的な評価規準に合わせた具体的な支援の方法を考え、机間指導計画表(座席表型)を作成する。

###### (イ) 個別性に応じた学習形態の工夫

- ・1単位時間の中で、一人で読み進める[一人読みコース]と、二人で話し合いながら読み進める[二人読みコース]、教師や友達とともに読み進める[グループ読みコース]を設定し、児童が自分でコースを選択できるようにする。

###### (ウ) 個性に応じた学習課題の選択

- ・興味関心に応じ、課題を選択させることによって、学習意欲を高める。インタビューする相手を主人公の「松井さん」と「女の子」のどちらかに選択させる。

(5) 単元の指導計画・評価計画（6時間扱い）（検証授業の本時5／6）

時	各時間の目標 ○主な学習活動・主な支援	
1	<p>「白いぼうし」のあらすじの大体をとらえ、感想の交流を通して学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。</p> <p>○初発の感想を交流する。 ○学習課題を設定する。 ・あらすじを確認しながら、疑問や感想を生かして学習課題を作るようにする。</p> <p>《評価規準【評価方法】》 ・登場人物や情景についての感想や疑問をもちながら読んでいる。 【発言・ワークシート】</p>	<p>学習課題の設定（インタビュー） 物語の中心に迫る価値の高い疑問を、登場人物へのインタビューという形でまとめていく。</p> <p>学習課題の解決 （インタビューに答えるために）</p> <p>①サイドラインを引き、想像したことを書き込む。 ②中心となる言葉を確認する。 ③インタビューに答える文を書く。 ④交流して、読み取り方の違いに気付く。</p> <p>自力解決 ▼ 学び合い ▼ 自力解決 ▼ 学び合い</p>
2	<p>松井さんの行動から、車の中に夏みかんをのせてきた理由を読み取る。（場面1）</p> <p>○夏みかんのことがわかる松井さんの行動や人柄を表す文にサイドラインを引く。 ○全体で、中心となる言葉を確認する。 ・中心となる言葉として価値付けしていく。 ○松井さんになりきって、インタビューに答える文を書く。 ○友達の発表を聞き、自分の考えとの違いに気付く、付け加えなどをする。 ・発表の仕方、聞き方を確認する。</p> <p>《評価規準【評価方法】》 ・松井さんの行動から、車の中に夏みかんをのせてきた理由を読み取り、自分なりの松井さんの人物像をつかんでいる。 【発言・ワークシート】</p>	<p>「どうして車の中に夏みかんをのせてきたのですか。」</p> <p>インタビューに答える文の書き方を知る。</p> <p>・ワークシートを活用させる。 ・書き出しの例を挙げる。 ・参考になる児童の記述を紹介する。 ・ヒントカードを活用させる。</p>
3	<p>松井さんの行動や場面の移り変わりから、白いぼうしに夏みかんを入れた理由を読み取る。（場面2）</p> <p>○白いぼうしに関する場面や、松井さんの行動・人柄を表す文にサイドラインを引く。 ○二人組で、中心となる言葉を確認する。 ○松井さんになりきって、インタビューに答える文を書く。 ○友達の考えを聞き、自分の考えとの違いに気付く、付け加えなどをする。</p> <p>《評価規準【評価方法】》 ・松井さんの行動や場面の移り変わりから、白いぼうしに夏みかんを入れた理由を読み取ったり、友達の考えを自分の書き込みに生かそうとしたりしている。 【観察・ワークシート】</p>	<p>「どうして白いぼうしの中に夏みかんをいれたのですか。」</p> <p>二人で交流しながら読み進める方法を知る。</p> <p>・読む力が異なる二人を組にする。 ・交流の手引きを活用させる。 ・サイドラインを引いた文だけでなく、理由も交流し合う。</p>

**女の子の行動や場面の移り変わりから、松井さんを急がせた理由を読み取る。(場面3)**

- 学習コースを選択する。
- 女の子の行動や場面の移り変わりが表現されている文にサイドラインを引く。
- コースごとに交流しながら、確認する。
- インタビューに答える文を書く。
- 交流→付け加えなどをする。

《評価規準【評価方法】》

- ・女の子の行動や場面の移り変わりから、松井さんを急がせた理由を読み取り、自分の考えの根拠となる語句や文を示しながら交流している。

【観察・ワークシート】

「どうして『早く行ってちょうだい。』と言ったのですか。」

学習コースを選択して読み進める方法を知る。

個別性に応じた学習形態の選択

自分で読み進める。	先生に支援・指導してもらいながら読む。
一人読み	グループ読み

**場面の移り変わりをとらえ、女の子が突然いなくなった理由を想像しながら読む。(場面4)**

- 学習課題を選択する。
- 女の子の行動や場面の移り変わりが表現されている文にサイドラインを引く。
- コースごとに交流しながら、中心となる言葉の確認をする。
- インタビューに答える文を書く。
- 交流→付け加えなどをする。

《評価規準【評価方法】》

- ・女の子がいなくなった理由を、女の子の気持ちや行動、場面の移り変わりを想像しながら、選択した人物の立場に立って読み取り、自分の考えの根拠となる語句や文を示しながら交流している。

【観察・ワークシート】

◇評価規準をおおむね達成している児童への支援

- ・選択しなかった課題も追求させ、他の登場人物の視点から、女の子がいなくなった理由を読み取らせる。
- ・さらに情景を豊かに想像することができるよう、色やにおいなどを表している言葉に着目させる。

松井さんへ「なぜ女の子は、とつぜんいなくなったと思いますか。」

女の子へ「どうしてとつぜんいなくなったのですか。」

課題を選択して読み進める方法を知る。

個性に応じた学習課題の選択

関心に応じて課題を選択する。

松井さんへ	女の子へ
-------	------

**読み取ったことを生かしてまとめの感想を書き、自分の読みの深まりに気付く。**

- 学習を振り返り、感想文を書く。
- 感想を交流し合う。
- 初発の感想と読み比べる。

《評価規準【評価方法】》

- ・読み取ったことを生かして感想文を書き、初発の感想と比べて、自分の読みが深まったことに気付いている。

【発言・ワークシート】

**(6) 検証授業の成果と課題 (研究主題に迫るための手だて)**

確かな読みの力を育てる指導の工夫	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューに答える文章を書くという目的をもたせたことにより、意欲を高めることができた。</li> <li>・登場人物になりきることが、行動や場面の移り変わりを想像するときの手助けとなった。</li> <li>・お互いの考えを交流することで、学習の確かめや自分とは違う考えを知ることができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より効果的な学び合いの方法と計画を作成していく。</li> </ul>
個に応じた指導の工夫	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習コースを選ばせたことにより、進度や能力に応じた支援をすることができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価簿を継続的に使用できるものに改善する必要がある。</li> </ul>

## 高学年分科会

### 1 分科会研究主題

「叙述に即して自分の考えを明確にしなが、読む力を育てる個に応じた指導の工夫」

### 2 高学年分科会の実践 10月実施

#### (1) 単元名 「ニュースで発信しよう、未来のわたしたちへのメッセージ」

学習材 「マンモス絶滅のなぞ」 後藤和文 (東京書籍 6年上)

#### (2) 単元の目標

叙述に即して読み、ニュース台本を作ることを通して文章全体の要旨をとらえ、人間と生き物や地球とのかかわり合いについて自分の考えを深めることができる。

#### (3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・友達との読みの交流を通して考えの違いに気付き、自分の考えに取り入れようとしている。	・わたしたちと生き物や地球とのかかわり合いを考えながら、文章の内容を的確に押さえ、自分がとるべき行動などの考えを明確にして読んでいる。	・段落と文章全体との関係をとらえて、筆者が3つの学説を根拠として挙げている文章の構成を理解している。

#### (4) 研究主題に迫るための手だて

##### ア 確かな読みの力を育てる指導の工夫

###### (ア) 言葉や内容をとらえる力を身に付けさせるための工夫

・中心となる語や文にサイドラインを引き、学び合いの中で根拠を説明させ、精選する。

###### (イ) 学び合いを自分の読みに生かす学習活動の工夫

・学習形態(個—グループ—全体—個)を明確にする。この中の2回の学び合いで、児童一人一人が互いの読みを交流する。

###### (ウ) 自分の考えを明確にしなが読む力を育てる指導の工夫

・意味段落の要点をとらえたものをニュース台本に再構成することで、筆者の考えに対して共感する点・疑問に思う点を明らかにさせ、自分の意見をもつことにつなげる。

##### イ 個に応じた指導の工夫

###### (ア) 評価規準に基づく指導・支援

・評価規準をもとに、単元を通しての評価計画を立てる。

・評価計画と前時までの評価に基づき、重点的に指導する児童を決め、具体的な支援の方法を考える。これを、机間指導計画表(座席表型)に記入する。

###### (イ) 自己評価

・本時の学習を振り返り、次時の自分のめあてを明確にさせるために、自己評価カードに記入する。学習の到達度を「文章の読み取り」と「自分の考えをもつこと」の観点で自己評価する。



(5) 単元の指導計画・評価計画（7時間扱い）（検証授業の本時5／7）

時	各時間の目標・主な学習活動(○)・主な支援(・)
1	<p><b>内容の大体をとらえ、感想を書く。</b></p> <p>○絶滅種・絶滅危惧種の話を読み、本文を読む。 ○感想の交流をする。</p> <p>・友達の考えと自分の考えを比べながら話す。</p> <p>《評価規準（評価方法）》【発言・感想文】</p> <p>・人間と生き物・地球という視点から、現時点での自分の考えを明らかにして読んでいる。</p>
2	<p><b>意味段落をとらえ、学習の見通しをもつ。</b></p> <p>○およその意味段落を分ける。 ○自分が話しやすい台本の作成の仕方を考える。</p> <p>《評価規準（評価方法）》</p> <p>・文章構成をとらえ、筆者があげた3つの説の位置付けを理解している。【観察・ノート】</p>
3	<p><b>温暖化説について、マンモスが絶滅した原因を読み取る。</b></p> <p>○大事な語や文にサイドラインを引く。 ・サイドラインの引き方を確認する。 ○サイドラインをもとにニュース台本をまとめる。</p> <p>○グループ学習をする。 ○全体学習をする。</p> <p>《評価規準（評価方法）》</p> <p>・環境の急激な変化によって食料がなくなり、マンモスが絶滅したという説をサイドラインを引きながら読み取っている。【サイドライン】</p>
4	<p><b>寒冷化説について、マンモスが絶滅した原因を読み取り、環境変化説について自分の意見をもつ。</b></p> <p>○グループ学習をする。 ・グループ学習で大事な語や文を精選させる。 ・サイドラインを引いた根拠を、本文をもとに説明するよう助言する。 ・話し合いの手引きを用意する。</p> <p>○全体学習をする。</p> <p>《評価規準（評価方法）》</p> <p>・急激な寒冷化によってマンモスが絶滅したという説を読み取り、その説に対する自分の意見をもっている。【サイドライン・ノート】</p>

**台本作成の方法**

- ・話すとおりに言葉を全部書き出す。
- ・要点を箇条書きにし、話す順番を付けておく。

**台本作成の支援**

- ・ニュースで話すときに自分が話しやすい方法でまとめるよう助言する。
- ・中心となる語や文を入れてまとめているか見直しをさせる。
- ・絶滅した説に対しての自分の意見を入れさせる。

**サイドラインを引く支援**

- ・接続語から段落相互のつながりを考えさせる。
- ・指示語や繰り返し出てくる言葉に着目させる。
- ・絶滅した原因をまとめて表している語や文を見つけさせる。

**サイドラインの種類**

- ・一人読み：鉛筆の実線
- ・グループ学習：鉛筆の波線
- ・全体学習：赤鉛筆の実線

今日のニュースです。マンモス絶滅の原因に新説が発表されました。〇〇博士によれば、環境の急激な変化に…

**学び合いの支援**

- ・話し合いの手引きを活用させる。
- ・サイドラインを引いた根拠を、本文を基に述べるように声をかける。
- ・友達のサイドラインと比較し、どの語や文がより大事な語や文かを考えるように助言する。
- ・友達が大事な言葉をどのように別の言葉に置き換えているかに着目させるようにする。

話し合いの手引き（説明的文章・一部）

司会： どんどころにサイドラインを引きましたか。

発言者： わたしは、～に引きました。その理由は△ページの内容を、ここでまとめていると思うからです。

司会： 他の人はどうですか。（同じ場面について話し合う）・・・

5 本 時	<p>人間乱獲説について、学び合いを生かして自分の読みを見直し、意見をもつ。</p> <p>○グループ学習をする。 ○全体学習をする。 ○ニュース台本を確かめたり、修正したりする。 ・友達の読みと自分の読みを比べさせ、友達の表現方法を参考にするよう助言する。</p>	<p><b>【指導の重点】</b></p> <p>・学び合いを生かして、自分の考えを確かめたり深めたりさせ、ニュース台本を見直させるようにすること。</p>												
	<p>《評価規準（評価方法）》</p> <p>・価値の高いマンモスを人間が乱獲し、絶滅させたという説を読み取り、友達の考えを踏まえて自分のニュース台本を見直している。【サイドライン・ノート】</p> <p>◇文章の内容を的確にとらえ、自分の考えをもってニュース台本をまとめている児童への支援</p> <p>・人間乱獲説について、共感できる点や疑問に思う点をニュース台本にまとめるよう助言する。 ・筆者の叙述と自分の意見を分けて、ニュース台本にまとめるよう助言する。 ・交流する場面で、積極的に自分の考えを出すよう認め励ます。 ・「量も質も実に貴重だった」「かけがえのない生き物」などの語句にサイドラインを引いた根拠を、話させるようにする。 ・友達の意見を聞いて疑問に思ったことについて、質問するよう声をかける。 ・人間乱獲説についての自分の考えを、友達に聞いてもらうよう声をかける。 ・友達と自分の読みや考えの相違点から、読みや考えを深めたり広げたりできるよう指導する。</p>													
6	<p>筆者の考えを読み取り、自分の意見をもつ。</p> <p>○これまでの説をふまえて筆者の考えを読み取る。 ○筆者の考えに対する自分の意見をもつ。 ・自分と生き物や地球とのかかわりを考えられるよう話をする。 ○友達と意見交流をする。 ・自分の考えとの違いを意識しながら聞くように助言する。 ○ニュース台本を仕上げる。</p> <p>《評価規準（評価方法）》</p> <p>・地球とのかかわりについて、筆者の主張と自分の考えとの違いや同じ点に気付いている。 【ノート】</p>	<p><b>(6) 検証授業の成果と課題</b> <b>(研究主題に迫るための手だて)</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">確かな読みの力を育てる 指導の工夫</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">成果</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュース台本をまとめるという学習活動により、児童が読み取った内容を再構成する意欲を高めることができた。</li> <li>・個の学習と全体学習の2回設定し、読みの根拠を説明したことで、自分の読みを確かめたり深めたりする事ができた。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合いの前に、個人の学習時間を十分確保する必要がある。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">個に応じた指導の工夫</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">成果</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導計画表に本時の評価規準に照らした個別支援計画を記入しておくことでどの児童にどのような支援をするかが明確にできた。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">課題</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より個に応じた支援の仕方・自己評価の在り方を検討する必要がある。</li> </ul> </td> </tr> </table>	確かな読みの力を育てる 指導の工夫		成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュース台本をまとめるという学習活動により、児童が読み取った内容を再構成する意欲を高めることができた。</li> <li>・個の学習と全体学習の2回設定し、読みの根拠を説明したことで、自分の読みを確かめたり深めたりする事ができた。</li> </ul>	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合いの前に、個人の学習時間を十分確保する必要がある。</li> </ul>	個に応じた指導の工夫		成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導計画表に本時の評価規準に照らした個別支援計画を記入しておくことでどの児童にどのような支援をするかが明確にできた。</li> </ul>	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より個に応じた支援の仕方・自己評価の在り方を検討する必要がある。</li> </ul>
確かな読みの力を育てる 指導の工夫														
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュース台本をまとめるという学習活動により、児童が読み取った内容を再構成する意欲を高めることができた。</li> <li>・個の学習と全体学習の2回設定し、読みの根拠を説明したことで、自分の読みを確かめたり深めたりする事ができた。</li> </ul>													
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合いの前に、個人の学習時間を十分確保する必要がある。</li> </ul>													
個に応じた指導の工夫														
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導計画表に本時の評価規準に照らした個別支援計画を記入しておくことでどの児童にどのような支援をするかが明確にできた。</li> </ul>													
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より個に応じた支援の仕方・自己評価の在り方を検討する必要がある。</li> </ul>													
7	<p>ニュースを聞き合い、意見交換をする。</p> <p>○ニュースを聞き合う。 ・友達のまとめ方や考えを、自分との違いを意識しながら聞くよう助言する。 ○感想を伝え合い、意見交換をする。</p> <p>《評価規準（評価方法）》</p> <p>・ニュースを聞き合い、意見交換をすることを通して、友達と自分の感じ方や考え方との違いや自分の初めの考えとの違いに気付いている。 【ノート・発言】</p>													

## 書写分科会

### 1 分科会研究主題

「文字を正しく整えて書きながら、日常に生きて働く書写力を育てる個に応じた指導の工夫」

### 2 書写分科会の実践 10月実践

#### (1) 単元名 「月をプレゼント」

学習材「月」 (光村図書 3年)

#### (2) 単元の目標

- 「はね」の筆使いを理解する。
- 硬筆・毛筆を使用して、点画の始筆・送筆(おれ)・終筆(はらい・はね)などの筆使いに気を付けながら、字形を整えて書く。

#### (3) 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"><li>・硬筆、毛筆を使用して文字を整えて書こうとしている。</li><li>・相手意識をもって、文字を整えて書き、日常に生かそうとしている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・毛筆で「はね」の筆使いが理解できている。</li><li>・硬筆で「はね」の方向に注意して、字形を整えて書いている。</li></ul>

#### (4) 研究主題に迫るための手立て

##### ア 確かな書写力を育てるための工夫

- (ア) 確かな書写力を育てるための評価規準の作成
- (イ) 学習材の特性を生かした指導計画
  - ・既習の筆使いが全て含まれた「月」の文字を学習することで、技能の定着を図る。
  - ・言語活動と関連し、「月」に関する詩文を紹介し、情感を広げる。
  - ・毛筆→硬筆→毛筆の学習指導計画を立て、硬毛関連を意識付ける。
- (ウ) 毛筆の筆使いを生かしながら、硬筆を書くことにより、確かな書写力の向上を図る。



##### イ 日常に生きて働く書写力を育てる工夫

- (ア) 日常化を促す効果的な学習活動の工夫
  - ・作品を家族にプレゼントする活動を設定し、目的意識や相手意識をもたせ、整った文字を書けるようにする。
  - ・友達同士で文字の変容やよいところに気付く活動を通して、手書きの文字に関心をもたせ今後の学習への意欲につなげる。
- (イ) 硬筆と毛筆の筆使いを関連付けることにより、書写力の日常化を図る。

##### ウ 個に応じた指導の工夫

- (ア) 一人一人の書写力に応じた指導の工夫
  - ・前単元の学習状況や第1時の経過から、一人一人の課題を把握し、支援計画を立てる。
- (イ) 自ら課題を見付け、解決する指導方法
  - ・自分の文字を基準の文字と比べて観察し、自己評価する。
  - ・筆使いや点画、字形など自分の課題を見付け、練習用ワークシートを活用して解決し、文字感覚を養う。

時	各時間の目標	評価規準・評価方法	○主な学習活動 ◇主な支援
1	<p>「はね」の筆使いを理解して「月」の文字を毛筆で書く。</p> <p>3画目と4画目の横画の間は同じ広さだね。</p> <p>「はらい」があるよ。</p> <p>「おれ」があるよ。</p> <p>次の画へ続くようにはねているよ。</p> <p>1度、筆を止めているよ。</p>	<p>○「はね」の筆使いを理解している。(発言・観察)</p>	<p>○単元のねらいを知る。</p> <p>◇作品を家族にプレゼントする活動を設定し、目的意識をもたせる。【工夫①】</p> <p>○「はね」の筆使いを知る。ビデオ映像により、筆を止めて、穂先をそろえて次画に向けて、ゆっくりはねる様子を見る。</p>
	<p>指導事項 <b>「はね」の筆使い</b></p> <p>いちど筆を止め、穂先をそろえるようにして、ゆっくり左上にはねること。</p>	<p>○既習の筆使いと「はね」に気を付けて書いている。(観察・まとめ書き・学習カード)</p>	<p>○「月」の文字を書く。(試し書き)</p> <p>○「月」の文字の秘密を話し合い、点画の組み立てや筆使いを考える。</p> <p>◇象形文字を知り、点画の組み立てについて理解を深めるようにする。【工夫①】</p> <p>○「はね」をワークシートで練習する。(練習)</p> <p>○既習の筆使いにも気をつけて書く。(まとめ書き)</p> <p>◇「はらい」「おれ」など終筆・送筆に気を付けて書くように机間指導をする。【工夫①】</p> <p>○学習カードに振り返りを記入する。</p>
2	<p>家の人に言葉を贈るために、詩を硬筆で書く。</p> <p>&lt;題材例&gt;</p> <p>お月さま まるい黄色い</p> <p>しんじゆ色</p> <p>東のお空は</p> <p>海のなか</p> <p>あかいお日さま</p> <p>あかね色</p> <p>西のお空は</p> <p>指導事項 <b>硬筆の筆使い</b></p> <p>・既習の筆使いと「はね」に気を付けて書くこと。</p>	<p>○自分で選んだ詩の文字を正しく整えて書いている。(観察・硬筆作品・学習カード)</p>	<p>○「月」に関する詩を数編、声に出して読む。</p> <p>◇言語活動・「読むこと」と関連し、情感を広げるために、詩を声に出して読むようにする。【工夫②】</p> <p>○硬筆の筆使いも、毛筆の筆使いが取り入れられることを知る。</p> <p>◇始筆・終筆・「はね」など毛筆の筆使いを意識しながら、書くことを助言する。【工夫①】</p> <p>○書きたい詩を選び、鉛筆で、文字を整えて、正しく書く。</p> <p>◇硬筆と毛筆の筆使いを関連付け、書写の日常化を図る。【工夫②】</p> <p>始筆・送筆・終筆に気を付けて書けましたか。</p> <p>「はね」の方向に気を付けて書けましたか。</p> <p>行の中心に気を付けて書けましたか。</p> <p>文字の形を整えて、ていねいに書けましたか。</p>

3 本 時	「月」の文字について、「はね」の筆使いに気を付けて、字形を整えて書く。		<p>○前時までに学習したことをビデオ映像で振り返り、本時のねらいを知る。</p> <p>○第1時のまとめ書きを基に、自分の課題を見付ける。</p> <p>◇筆使いや点画の長さ・方向・画間などに着目し自分の文字を観察する。【工夫③】</p> <p>○「月」の文字を毛筆で練習する。</p> <p>◇自分の課題を解決するために、ワークシートを選択する。【工夫③】</p> <p>○「月」の文字のまとめ書きをする。</p> <p>◇相手意識をもって、ていねいに文字を書くことを確かめる。【工夫②】</p> <p>○友達と作品を見合い、相互評価をする。</p> <p>◇お互いの作品のよいところに気付き、手書き文字に関心をもたせ、今後の意欲につなげるようにする。【工夫③】</p> <p style="text-align: right;">&lt;机間指導計画表&gt;</p>									
	<p><b>指導事項 毛筆の筆使い</b></p> <p>・「はね」に気を付けて、字形を整えて書くこと。</p> <p>・家の人に贈るために、ていねいに「月」を書くこと</p>		<p>○「はね」の筆使いに気を付けて、字形を整えて、ていねいに書いている。</p> <p>(前時のまとめ書きの修正・観察・本時のまとめ書き)</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">児童名</td> <td style="width: 33%;">児童氏名</td> <td style="width: 33%;">児童氏名(◎)</td> </tr> <tr> <td>はねの課題</td> <td>終筆</td> <td>運筆不安定</td> </tr> <tr> <td>その他の課題</td> <td>はらい</td> <td>始筆</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">◎は本時、重点的に指導したい児童</p>	児童名	児童氏名	児童氏名(◎)	はねの課題	終筆	運筆不安定	その他の課題	はらい
児童名	児童氏名	児童氏名(◎)										
はねの課題	終筆	運筆不安定										
その他の課題	はらい	始筆										

(6) 検証授業の成果と課題 (研究主題に迫るための手だてについて)

	成 果	課 題
確かな書写力	<p>○詩文を紹介し、硬筆で視写する活動を指導計画の中に位置付けたことは、児童の意欲を高めることに有効であった。</p> <p>○毛筆の筆使いを、硬筆に生かすことができた。</p> <p>○自分の文字を観察し、赤ペンを入れることによって、自分の課題を見付けることができた。</p> <p>○解説入りワークシートは有効であった。</p>	<p>○学習材として、ふさわしい詩文を選択し、基準となる文字を提供できるよう洗い出しを進める。</p> <p>○解説入りワークシートの内容については、本時のねらいにより、軽重を付ける必要がある。</p>
個に応じた指導	<p>○机間指導計画表を活用することにより、個に応じた効果的な支援が可能になり、児童の変容をつかむことに有効であった。</p>	<p>○机間指導計画表を1単位時間の中で有効に使うために、より指導の重点を明確にし、机間指導の順序も工夫する必要がある。</p>
日常に生きて働く力	<p>○相手意識や目的意識をもち、整った文字を書くことで、伝達性が高まり、身に付けた書写の技能を生かすことができた。</p>	<p>○相手意識・目的意識の有効なもたせ方について、さらに工夫が必要である。</p> <p>○手書きの文字のよさを意識させるための指導の工夫が必要である。</p>

## IV 研究の成果と課題

### 1 確かな読みの力を育てる指導の工夫

- 学習指導要領の「読むこと」の指導事項を踏まえ、「叙述に即して正確に読む力」「叙述を基に想像して読む力」「叙述に関して自分の考えをもつ力」「目的に応じて読む力」という4つについて「確かな読みの力を育てる読むこと」の評価規準表を作成したことにより、「読むこと」の学習で身に付けさせたい「確かな読みの力」を明確にすることができた。今後、低学年、中学年、高学年のつながりを考えた具体的な手立てを考え、さらに年間指導計画への位置付けを工夫したい。
- 読む過程でサイドラインを引くことは、叙述に即して文章の中心となる語や文を意識して読み、精選していくための手立てとして有効であった。また、読み取った内容を再構成して書くことは、叙述に即して読んでいるか、どの叙述を基にしているのかなどを教師も児童自身も確かめることにつながった。さらに、言葉を手がかりに読み進める学習方法を工夫したい。
- 学び合いを自分の読みに生かす指導方法の工夫では、個人から二人組やグループへ、また全体へと学び合いの方法を工夫した。これらの学習を学習過程に組み込むことで、友達の読み方を学び、自分の読みを確かめたり、深めたりすることができた。さらに学習を効果的に行うためのグループの人数や場の設定について考えていきたい。

### 2 確かな書写力を育てる指導の工夫

- 学習材の文字を含んだ平明な詩文を味わい、その詩文を視写する活動を指導計画の中に位置付け、毛筆の筆使いを意識させながら、硬筆で書く活動を取り入れた。このことにより、児童の学習意欲を高めることにつながった。さらに、学習材として適した詩文を選ぶ工夫を行いたい。
- 相手意識や目的意識を明確にもたせ、手書きの文字の良さを生かして、整った文字を書くことで、伝達性が高まり、身に付けた書写の技能が生かせることが分かった。さらに、有効な相手意識や目的意識の持たせ方について研究を深めたい。

### 3 個に応じた指導の工夫

#### (1) 読むこと

- 単元および1単位時間ごとの机間指導計画表を作成したことにより、児童の学習状況の変容を把握し、個別の手立てを明確にしながらい指導することができた。
- 多様な学習方法を工夫し、児童の興味・関心や読みの課題に合わせて選ばせたことは、学習への意欲や達成感を高めることができた。
- 自己評価に継続して取り組ませたことは、本時の達成感や次時への課題を児童自身でもつことができるようになった。単元の終末には、児童の言語生活や読書生活への発展を意識させるよう、学習材の内容的な価値や学習したことを自分の言語生活に生かす視点で指導を行うことができた。

#### (2) 書写

- 机間指導計画表を活用したことにより、個に応じた効果的な支援が可能になり、児童の変容をつかむことに有効であった。さらに、1単位時間の授業の中で、できるだけ多くの児童に対する支援ができるように個別の課題の把握の仕方を工夫し、個に応じた支援の充実を図りたい。
- 試し書きやまとめ書きの文字と比べさせることにより、自ら課題を見つけ解決することができた。このことにより客観的に自分の文字を観察することができ、さらに発展的な自分の課題を見付けることができた。

V 資料「確かな読みの力を育てる読むこと」の評価規準表

評価の観点		低 学 年	中 学 年	高 学 年	
確かな読みの力	叙述に即して正確に読む力	国語への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・易しい読み物を、内容の大体をとらえて読もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的意識をもって、段落相互の関係をとらえ、内容の中心を読み取ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて、内容を的確に押さえながら、要旨をとらえようとしている。</li> </ul>
		読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章のまとまりや内容の大体を読んでいる。</li> <li>・時間や書かれている事柄の順序に気付き、内容の大体を読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心となる語や文をとらえたり、内容をまとめたりしながら読んでいる。</li> <li>・段落相互の関係を押さえ、文章の内容を正しく読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書かれている文章の内容を的確に押さえている。</li> <li>・内容を押さえながら要旨をまとめている。</li> </ul>
		言語についての 知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意味を考えながら、ひとまとまりの語や文として読んでいる。</li> <li>・順序を表す接続語に着目して読んでいる。</li> <li>・主語と述語の関係に注意して読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落の形成や役割を理解している。</li> <li>・接続語、指示語の意味や使い方を理解している。</li> <li>・主語と述語、修飾と被修飾の関係に注意して読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落と文章全体との関係をとらえて、文章の構成を理解している。</li> <li>・語句の使い方、文末などの表現の工夫や効果を理解している。</li> <li>・中心語句や段落に気を付けながら、内容の中心を押さえたり、接続語などに着目したりしている。</li> </ul>
	叙述を基に想像しながら読む力	国語への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想像を膨らませて読もうとしている。</li> <li>・言葉の繰り返しやリズムなどを楽しみながら、声に出して読もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の移り変わりや情景を表す言葉に気付き、想像して読もうとしている。</li> <li>・登場人物の人柄や行動を想像しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情や情景などを表す表現に着目し、優れた叙述を味わいながら読もうとしている。</li> </ul>
		読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の様子や説明されている事柄などについて、想像を膨らませながら読んでいる。</li> <li>・言葉の繰り返しやリズムなどを楽しみながら、声に出して読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の移り変わりや情景を想像しながら読んでいる。</li> <li>・登場人物の人柄や行動を想像しながら読んでいる。</li> <li>・語感や表現を味わいながら読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の心情や場面を想像しながら読んでいる。</li> <li>・優れた叙述を味わいながら読んでいる。</li> </ul>
		言語についての 知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返しのおもしろさなどに気付きながら、はっきりした発音で読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文脈における言葉の意味、語感などの表現に着目し、その良さ、役割などに気付きながら読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語感の違いや情景などの表現に着目し、そのよさ、効果などを感取りながら読んでいる。</li> </ul>

確かな読みの力	叙述に関して自分の考えをもちながら読む力	国語への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問や感想をもって読もうとしている。</li> <li>・友達との交流を通して、いろいろな考えがあることを知ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの考えや感想をまとめようとしている。</li> <li>・友達との交流を通して、自分の感じ方や考えと友達との違いに気付き、自分の読みを見つめ直そうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えや登場人物の心情を読み取り、自分の考えを明確にしようとしている。</li> <li>・友達との交流を通して、感じ方や考え方の違いに気付き、自分の読みに取り入れようとしている。</li> </ul>
		読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書かれている内容について、自分の経験と結び付けながら、疑問や感想をもっている。</li> <li>・いろいろな考えがあることに気付いて読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書かれている内容について、自分なりの考えや感想をもっている。</li> <li>・友達との交流を通して、自分の感じ方や考えと友達との違いに気付き、自分の読みを見つめ直している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読んでいる。</li> <li>・友達との交流を通して、感じ方や考え方の違いに気付き、自分の読みを深めたり広げたりしている。</li> </ul>
		言語についての 知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の疑問や感想の基になっている語や文に気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えや感想の根拠となる語や文に気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見や感想の根拠となる語、文、表現に気付いている。</li> <li>・友達との読みの違いについて、叙述を根拠に見直している。</li> </ul>
	目的に応じて読む力	国語への 関心・意欲・態度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事な内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な資料や文章を選んで読もうとしている。</li> <li>・必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫しようとしている。</li> <li>・課題をもって読もうとしている。</li> </ul>
		読む能力		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事な内容をまとめたり、必要となる細部に注意したりしながら読んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題を解決するために、必要な資料の種類を考えたり、資料の利用の仕方を考えたりしながら、情報を選んで読んでいる。</li> </ul>
		言語についての 知識・理解・技能		<ul style="list-style-type: none"> <li>・接続語、指示語、文末の表現などに着目しながら、必要な情報や大事なことを選び出している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心語句や接続語などに着目しながら、必要な情報や大事なことを選び出している。</li> </ul>



「確かな書写力」の評価規準表

評価の観点		低 学 年	中 学 年	高 学 年
確 か な 書 写 力	国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢や用具の正しい持ち方を意識している。</li> <li>文字を正しく書こうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>硬筆、毛筆を使用して、文字を整えて書こうとしている。</li> <li>漢字とひらがなの大きさを意識して書こうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の文字に対して課題意識をもっている。</li> <li>文字の特徴について関心を示している。</li> <li>読みやすく文字を書こうとしている。</li> </ul>
	日常生活に生きて働く力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の名前を正しく書いている。</li> <li>ノートやワークシートの文字をマス目に合わせて書いている。</li> <li>手紙を丁寧に書いている。</li> <li>掲示物を分かりやすく書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察カード・新聞などを読みやすく書いている。</li> <li>手紙や招待状を正しく整えた文字で書いている。</li> <li>簡単な詩文を正しく整えた文字で書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会やクラブなどのお知らせのポスターを分かりやすく書いている。</li> <li>短歌・俳句・詩文などを正しく整えた文字で書いている。</li> <li>卒業文集を正しく整えた文字で書いている。</li> </ul>
	言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい文字の書き方と整え方を理解している。</li> <li>姿勢や用具の持ち方を正しく理解している。</li> <li>点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書いている。</li> <li>送筆（折れ・曲がり・結びなど）や終筆（止め・はね・はらい）に注意して、正しく書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の形、大きさ、配列などを理解している。</li> <li>毛筆における始筆・送筆（折れ・曲がり・結び）終筆（止め・はね・はらい）や文字の組み立て方を理解している。</li> <li>文字の組み立て方に注意し、文字の形を整えて書いている。</li> <li>文字の大きさや配列に注意して書いている。</li> <li>毛筆を使用して点画の筆使いや文字の組み立て方を理解しながら、文字の形を整えて書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の組み立て方、大きさ、ひらがなの字形や字配りを理解している。</li> <li>点画の筆使いや文字の組み立て方を理解している。</li> <li>硬筆・毛筆による筆使いを身に付けて、正しく整った文字を書いている。</li> <li>硬筆による配列、毛筆による字配りを理解して書いている。</li> </ul>

平成17年度 教育研究員名簿（国語・書写）

分科会	区市町村名	学 校 名	氏 名	担当
低 学 年	台東区	台東育英小学校	尾上 佐智子	1年
	練馬区	練馬第三小学校	和歌 恭子	1年
	江戸川区	下鎌田小学校	白井 恵子	1年
	千代田区	麴町小学校	北川 さかえ	2年
	港区	赤坂小学校	小出 宏之	2年
	渋谷区	神南小学校	○所 水奈	2年
	町田市	鶴川第三小学校	石塚 晃子	2年
	東村山市	化成小学校	☆西原口 紀子	2年
	狛江市	狛江第五小学校	遠藤 裕美子	2年
中 学 年	大田区	久原小学校	室伏 亜紀	3年
	瑞穂町	瑞穂第四小学校	松尾 優子	3年
	目黒区	不動小学校	林 靖子	4年
	豊島区	要小学校	☆辻井 克彦	4年
	三鷹市	第三小学校	花岡 亜紀子	4年
高 学 年	品川区	伊藤小学校	☆橋本 則子	5年
	杉並区	松ノ木小学校	中垣 知美	5年
	荒川区	尾久第六小学校	◎野澤 一代	5年
	足立区	六木小学校	下山 桃子	5年
	葛飾区	水元小学校	安達 泰子	5年
	多摩市	北諏訪小学校	酒井 さち子	5年
	中野区	鷺宮小学校	橋本 誠之	6年
	江戸川区	鹿骨東小学校	有福 啓典	6年
	昭島市	武蔵野小学校	奥田 奈緒子	6年
	小金井市	前原小学校	藤澤 文恵	6年
書 写	世田谷区	笹原小学校	長澤 桃子	3年
	豊島区	文成小学校	☆伊藤 早苗	4年
	板橋区	蓮根小学校	小池 央恵	5年
	東村山市	大岱小学校	佐薙 康子	4年

◎全体世話人      ○全体副世話人      ☆分科会世話人

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 伊藤 浩介  
指導主事 坂西 圭子

平成17年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録  
平成17年度 第12号

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒一丁目1番14号  
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 株式会社 今 関 印 刷